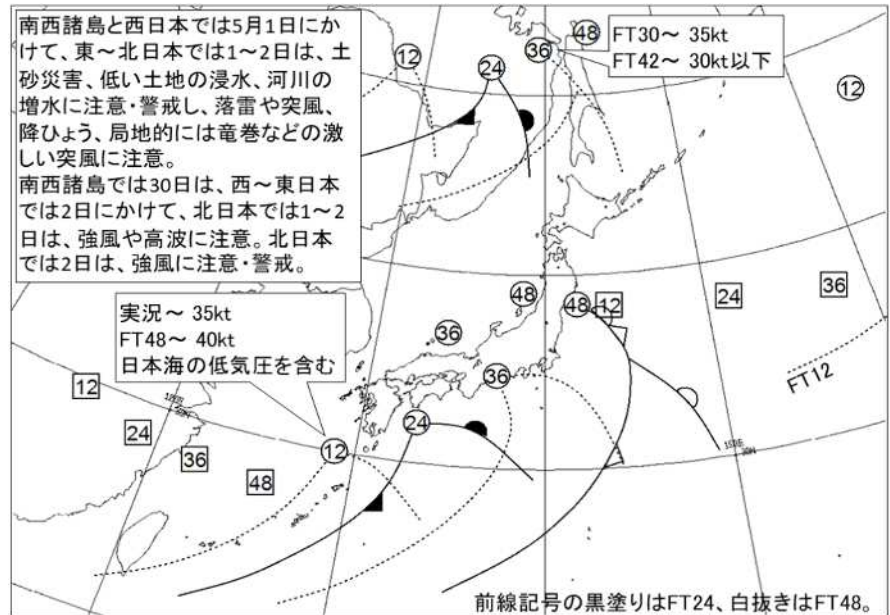


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5640m付近で-21℃以下の寒気を伴う寒冷渦が華北付近を東進。その南側の500hPa 5760m付近のトラフ対応の低気圧が、東シナ海を東北東進し、温暖前線が南西諸島付近を通過して、日本の南にのびている。東シナ海では活発に発雷し、非常に激しい雨を解析。先島諸島付近で、メソサイクロンを検出。
- ② 高気圧が、日本海を東へ移動。
- ③ ①の寒冷渦やトラフの前面の西～東日本には500hPa 正渦度極大域に対応して雲が広がっており、西日本では雨が降っている。



主要じょう乱解説図

いる。東日本では、②の高気圧南側の湿った東よりの風の影響で関東甲信地方を中心に雨の所がある。

- ④ 500hPa 5520m付近で-30℃以下の寒気を伴うトラフが、日本海北部～北日本を通過中。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は、30日夜にかけて種子島・屋久島付近を通過して四国の南に進む。この低気圧は、5月1日は寒冷渦の前面で発達しながら西～東日本太平洋側の沿岸付近を通過して三陸沖に進み、2日は日本の東を北東進して千島近海に進む。また、1日は別の低気圧が日本海に発生して東北東進し、2日朝までに、発達する太平洋側の低気圧に取り込まれる。これらの低気圧や前線に向かう850hPa θe330K前後の下層暖湿気と上空寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。南西諸島と西日本では1日にかけて、東～北日本では1～2日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 2項①の低気圧や前線の影響で、強い風や非常に強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。南西諸島では30日は、西～東日本では2日にかけて、北日本では1～2日は、強風や高波に注意。北日本では2日は、強風に注意・警戒。
- ③ 1項②の高気圧は、東北地方付近を通過して、30日夜にかけて日本の東へ移動する。また、1～2日は、別の高気圧が、華中付近から南西諸島付近を通過して日本の南へ移動する。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項①の低気圧や下層暖湿気の影響に不確実性があり、降水量の予想にも不確実性があることに留意。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(06時からの24時間)：四国180、東海・近畿・九州南部120、関東甲信・奄美100mm。
- ② 波浪(明日まで)：伊豆諸島5、東北・関東・東海・近畿4、北海道・中国・四国3m。
- ③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。西日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

「雷と突風及び降ひょうに関する全般気象情報」を5時頃発表予定。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。